

河合塾・大竹先生による

先生方のための徹底入試対策講座

第112回 「大学入学共通テスト」って？

この春でセンター試験は終わり、来春から「大学入学共通テスト」が始まります。

6月から多くの高校は授業が再開し、受験生の多くの次の関心は、「大学入学共通テスト」でしょうね。これについて、これまで2回の「大学入学共通テスト・試行調査」が行われました。でも、来春の試験はどのようなものになるのでしょうか。時期尚早かもしれませんが少し大胆に予測してみたいと思います。もちろん、だれにも確実なことは言えないのですが、生徒には、不安が先に立つことがないように、ある程度伝えておかないと…、と思います。



大学入試共通テストの試行調査の解答・分析は、私もして出版物になっていますが、私の分析だけでなく、他の先生方の分析を読んだ受験生もいると思います。その中には、とても歯が立たないと思った諸君が居るかもしれませんね。

というのは……。

実はこの試行調査は、平均点が相当低かったのです。マーク式の平均得点率は、
数学Ⅰ・Aが30.12%、数学Ⅱ・Bが36.05%

です。得点率が低かった理由は、試行調査の問題がほぼすべて、読解力、分析力、思考力、表現力、振り返る力、発展させる力など、

「広い意味での思考力」が要求される問題だった

ことです。

「数学的な基礎力」を試す問題ではなかった

のですね。

単純に言えば、センター試験よりずっと難しかったのですね。



大学受験生の多くが受ける大学入学共通テストがうまく機能するためには、少なくとも、50%前後の平均得点率は必要ですよ。3割やそこらでは、共通入学試験として機能するとは思えません。したがって、来春の大学入学共通試験は、

「広い意味での思考力」を試す問題と「数学的な基礎力」を試す問題のいずれも出題される

でしょうね。そうでなく試行調査のような平均点なら、数学は低レベルで競争にならず、他教科で（他教科の平均点は知りませんが）決まるような、数学の試験の意味がないという事態になります。したがって、対策は、二つの方向性から考えます。

1 「数学的な基礎力」を身につける

これはこれまでのセンター対策と大きな違いはありません。先生方は、これまでの多くの経験がおりですから、特に申し添えることはありませんが、生徒たちには

マーク式だから易しいという、大いなる錯覚

をしていることがあります。これは誤り、勉学を怠ってはならないのです。一部の（かなり多くの）私大の基本レベル～標準レベルの問題と大学入学共通テストは全く別のものと考えてほうがいいでしょうね。これまでのセンター試験でも同じような錯覚であまり勉強をしなかったという受験生はそれに応じた結果を得ていますよね。

大切なことは、「数学的な基礎力」すなわち、定理、公式も含めて数学用語や知識、考え方を確実に身につけ、使い方もマスターすることです。形式を問わず質の良い問題演習が有効でしょうね。純粹に数学の学力の底上げですね。

2 数学をのんびりと考え「広い意味での思考力」を構築していく

これは一朝一夕にはできることではありません。が、そうした問題を考えることの繰り返しで、知らぬうちに思考力がついている、となります。これは出来ます。ただし、問題の解法のパターンは... というような考え方だけを追うような勉強ではうまくいくはずがないでしょうね。

高得点を狙うならとても重要です。それなりの得点を目指すなら、1を重視して2はそれなり？というのもありかな？！！ちょっと悲しいけど、合格だけを目指すならありでしょう。やはりこれはすごく悲しいですね。



「勝手に！第10回大学入試問題検定！！」前回の正解は②湘南工大でした。

学校法人河合塾 数学科講師 大竹真一